



2020年6月15日

公益社団法人日本プロサッカーリーグ  
副理事長 原 博実 様

浦和レッドダイヤモンド株式会社  
代表 立花洋一

## 無観客試合におけるサポーター横断幕について

貴社いよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、先日、「Jリーグ 新型コロナウイルス感染症ガイドライン」において、無観客試合では全クラブ統一でファン・サポーターの横断幕掲出を禁止するというルールが発表されました。先般の実行委員会で多くの時間を割き主張させて頂いた通り、浦和レッズは、この決定に対し「反対」であることを、改めてお伝えさせていただきます。せめて統一ルールではなく、各クラブ判断とするべきだと考えます。

言うまでもなく、ファン・サポーターの存在はサッカー界にとって宝であり、選手がプレーするのは彼らのためであり、彼らの情熱こそがフットボールの魅力です。そして、その魅力によって、中継が入り、放映権料収入となり、スポンサーからの協賛金も付きます。つまり、事業面から捉えるとファン・サポーターは利益を生む原点だと言えます。

私たち浦和レッズは先日ホームスタジアムで久しぶりの対外試合を無観客の形式で開催しました。練習試合ではありましたが、無味乾燥なスタジアム、無力感漂う雰囲気などを感じ、この状態で7月4日に再開する公式戦を盛り上げ、待ちわびたファン・サポーターに、本当に勇気と元気を届けられるのか、違和感を強く感じました。

無観客試合でのサポーター横断幕掲出禁止は、新型コロナウイルスの感染リスクが理由となっております。しかし、横断幕そのものの感染リスクは、既にガイドラインで掲出が認められているパートナー企業のバナー広告と何ら変わるものではないと考えています。もちろん、やはり認められている「段ボール」を用いた掲出物と比べて感染リスクが高いとは言い難いものです。また、掲出する行為においては、サポーターから直接受け取らない、掲出するまで48時間以上空ける（48時間でウィルスは死滅する）など工夫をすることで最大限リスクを下げられると考えます。それにも関わらずサポーターの横断幕は禁止、バナーや広告、「段ボール」掲出は許可という決定は矛盾しており、納得することができません。

村井満チェアマンは無観客試合を「最後の最後の手段」と主張されてきました。それが無観客試合と

**URAWA REDS**



なった途端、感染リスクを大きく軽減する手段があるにも関わらず、リスクを前面にファン・サポーターの想いから背を向けるようなJリーグの判断に日本サッカーの未来に不安を感じます。多くのJクラブがサポーター横断幕の掲出を嫌がっていることに加え、Jリーグ自体も全クラブ統ルールとして、各クラブの異なる事情に応じたそれぞれの対応とすることを避けたことに対し、日本サッカー界の将来を憂います。

クラブとファン・サポーターは一緒に勝利を目指し、共に苦しみ、共に喜び、時には共に悲しむ。苦しい時には励まし合い、時には叱咤激励し合う。お互いにそんな存在であり、その先に掴んだ結果にこそ価値があり、真の喜びがあります。このような関係こそが真のフットボール文化であり、Jリーグが目指してきた「あるべき姿」であると信じています。少なくともこれらは浦和レッズが目指すところです。

無観客試合においても、ファン・サポーターの想いを背負うこと及びホームアドバンテージの一つとして、横断幕の掲出を許可するべきだということを浦和レッズはこの先も訴え続けていく所存です。

以上